

## イチジクのオーバーラップ整枝では主幹長が長いと収穫が早く果皮色が良くなる

オーバーラップ整枝において、主幹部の長さの違いが結果枝の生育、着果及び果実品質に及ぼす影響について調査した。その結果、主幹長を長くすると、初期生育が優れ、果実の着色が向上することが分かった。

### 内容

「オーバーラップ整枝」は主枝を片側1方向のみに配置し、その主枝を隣接樹の樹上に重ねる凍害回避に有効な樹形である(写真、ひょうごの農林水産技術No.189)。しかし、果実生産に適した主幹の長さについては不明な点が多い。そこで、隣接樹との重なり程度を決める主幹長の違いが「榊井ドーフィン」(8年生)の生育、着果及び果実品質に及ぼす影響を検討した。

結果枝長は、6月上旬の生育初期に主幹が長いと長くなり、初期生育が促進された(表)。果実品質は、果実重と糖度に差はなかったが、主幹が長いと果皮色及び着色率が高くなった(表)。結果枝当たりの累積収穫果数は、9月上旬までは主幹が長いとやや多く推移し、収穫期が前進する傾向にあった(図)。なお、節位別の着果率と着果日について、結果枝の1~12節まで調査したところ、主幹の長さの違いによる差はなかった(データ略)。

### 今後の方針

一文字整枝に比べて、オーバーラップ整枝は樹勢が抑制される傾向があることから、収量維持と

果実の高品質化が可能な主幹の長さ、作業性が優れる主枝の高さと結果枝の誘引方法を検討する。

宗田 健二 (農産園芸部)

(問い合わせ先 電話:0790-47-2424)



写真 オーバーラップ整枝

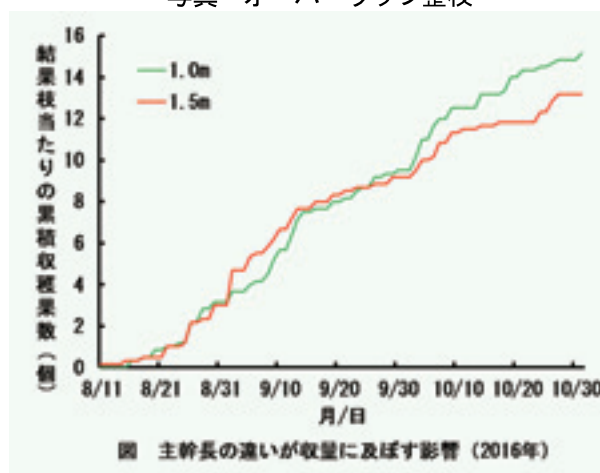


表 主幹長の違いが結果枝長と果実品質に及ぼす影響(2016年)

| 主幹長              | 結果枝長(cm) |       | 果実重 (g) | 果皮色 <sup>z</sup> | 着色率 (%) | 果汁糖度 (Brix) |
|------------------|----------|-------|---------|------------------|---------|-------------|
|                  | 6月1日     | 7月28日 |         |                  |         |             |
| 1.0m             | 17.0     | 67.1  | 87.5    | 6.7              | 83.7    | 15.8        |
| 1.5m             | 22.0     | 60.9  | 83.2    | 7.0              | 90.4    | 16.0        |
| 有意性 <sup>y</sup> | *        | ns    | ns      | **               | **      | ns          |

<sup>z</sup>果皮色は1から9のカラーチャート値による平均値

<sup>y</sup>\*\*は1%水準、\*は5%水準で有意、nsは有意差なしを示す(t検定)